

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成 26 年度第 3 回大学情報システム研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成 27 年 1 月 20 日(火) 16:00 から 18:00 まで  
II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室  
III. 参加者：疋田担当理事、岩井委員長、藤本委員、杉山委員、小川委員、片岡委員(Skype)  
アドバイザー賛助会員：㈱ニッセイコム  
事務局：井端事務局長、野本、藤江(記)

IV. 検討事項

前回の検討事項である「シラバスを通じて学生に呼びかけるための工夫」、「学士力の修得状況を自己点検できるようにするためのワークシートの構成とその例示」の継続検討。「学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法の留意点」、「個々の授業課題を解決するための改善策を学生にフィードバックする際の留意点」を新たに検討した。「授業の有効性を確認する方法のモデルの例示」は次回以降の検討課題とする。

1. 「シラバスを通じて学生に呼びかけるための工夫」についての再確認

- ① 個々の授業科目の担当者が自分たちの受講生に語りかける、上級生が語りかける、OBが語りかける、この3つが必要だ。
- ・ 実際に先輩方のポートフォリオを参考にしながら背中を押された感じで、進学を決めたというコメントを出している学生がいた。スクリプトを考えるのであれば、大学院生か学部生に語りかけるものは作れるかと思う。
  - ・ 3年間で約3分の1が会社を辞めていくという状況なので、社会人4年目以降の先輩から声が良いのではないか。「振り返ってみると、ポートフォリオをやっていた事が、今こういう事に役立っている。だから、皆さんも真剣に取り組んでください。」というアドバイスがあったら良いと思う。
- ② 各委員で分担してシラバス上でマルチメディアを用いた語りかけのスクリプトを作成する事となった。
- ※ スクリプト作成の分担について
- ・ 授業科目の担当者からの語りかけ：杉山委員
  - ・ OBと上級生からの語りかけ：藤本委員

2. 学士力の修得状況を自己点検できるようにするためのワークシートの構成とその例示

- ① 「授業の進み具合を点検するワークシート」、到達目標にどれだけ到達できたか、「学修到達度を確認するワークシート」の2種類のワークシート必要だ。
- ・ 社会で起きている現象との結びつきを理解できているかという、知識の定着の確認が重要だが、問いかけ方に気をつけることで学生の本音や、不安を吸い取れる事ができるのではないか。
  - ・ 委員会として作ったものでコンクリートするのではなくて、一度大学に持ち帰り、他の先生が他のご意見を頂くようにした方が良い。その上で修正していけば、分野毎で大学の意見が反映できるのではないか。まずは、原案づくりというイメージで取り組みたい。
- ② 「授業の進み具合を点検するワークシート」、「学修到達度を確認するワークシート」の2種類のワークシート(案)を各委員で分担して作成する事となった。
- ※ ワークシート作成の分担について
- |        |          |         |         |
|--------|----------|---------|---------|
| ・ 文系科目 | ： 疋田担当理事 | ・ 教養系科目 | ： 岩井委員長 |
| ・ 理系科目 | ： 小川委員   | ・ 医療系科目 | ： 片岡委員  |

③ ワークシート作成の構成要件について

◆「授業の進み具合を点検するワークシート」の構成要件

- ・ 学修時間の把握  
⇒個人・チーム共に事前事後学習の時間を記録させる。
- ・ 知識の確認  
⇒教員側から知識の範囲を指定して確認する。授業の中でどのくらい理解したかを試験ではなく、簡単に論述させる。また、学んだことや感想・気づきを簡単に2、3行で記述させる。このように、知識の量を確認するのと、自分なりに学んだこと、自分なりにこの授業で気づいたことを記録させるということも、知識の確認として必要なのではないか。
- ・ 知識の定着  
⇒獲得した知識を社会や組織の課題に関連付けて理解できているか。レポートの提出が必要。
- ・ チームで考えた場合、考察プロセスの中での学生の役割
- ・ 技能、態度の定着

◆「学修到達度を確認するワークシート」の構成要件

- ・ 身についた能力に自信が持てているのか、本音の表現。  
⇒試験では合格したが本当に自信があるのか、ないのかの表現。
- ・ 自分が成長したと思えることの記述。  
⇒学びの改善や工夫の確認で、次の授業に、失敗・成功した学びの経験を、どのように反映させるのか学生に記述させる。
- ・ グループ学修では、個人で持っていない知見をグループの中で培えたのか、グループの議論の中で、自分が持っていない考え方についてどのような気づきがあったのかを確認し、評価する必要がある。

④ ワークシートへの記載のタイミングについて

◆「授業の進み具合を点検するワークシート」

- ・ 毎回か、2回か3回の授業で1回。15週の中でどこかで、中間的に取ることにする。

◆「学修到達度を確認するワークシート」。

- ・ 学期が終了した段階。15週目を想定する。

⑤ タイムスケジュールについて

- ・ 各委員から2月16日(月)中にメーリングリストに(案)を送付し、各委員からのご意見を伺う。次に2月28日(土)までにそれぞれが学部の先生方にご意見伺って、3月2日(月)までに再度送付することとなった。

3. 学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法の留意点について

- ① 教員同士による連携体制、ファシリテーターの制度、教職の一体の連携などの学修支援体制等、大学でマスタープランを持っていることが大切だ。不安のある学生には大学の関係部署が連携して、解決をさせていくプランが必要。
- ② ワークシートを通して、学生がどんな不安を抱えているのか、どういう事が問題なのかということを察知して、教員と学生の信頼関係に基づいて、責任を持って面倒を見る。その際、必要に応じて面接を行うことも重要だ。
- ③ 不安を抱える学生を対象とした学修支援のイメージの例示について
  - ・ 基礎学力が不足している学生への指導の場合、修学アドバイザーで家庭教師のように支援する。発達障害や心の病を抱えている学生にはカウンセラー、ピアサポートで

フォローする。

- ・ 課題として、基礎学力不足の学生や知識理解が不足する学生を対象に学修支援室や学修支援センターを作っても、来てほしい学生こそ来てくれない。同様にeラーニングも使ってほしい学生が使ってくれないという問題がある。
- ・ 学修支援室や学修支援センターに行くことは恥ずかしいことではない、今の学修が理解できなければ、次の学修にいけないということを学生達に理解させることが重要だ。
- ・ いろいろな学生同士が集まって、学生同士で相互に支援する仕掛けも必要になって来る。それをSNS上でやらせることも考えられる。
- ・ オリエンテーション等で学修支援室とか学修支援センターを使ったことのある上級生が新生に語りかけることも有効だ。
- ・ 具体的な例があれば例示するが、今回は留意点のみを纏めることとなった。例えば学修支援室や学修支援センターにどう来させるのか、という仕掛けも、「体験した上級生の言葉を使うと非常にわかりやすい」というノウハウなどを取り纏めると分かり易いと思われる。

- ④ 学修支援を効果的に進めるために職務規範を整理する必要がある。教職員一体となり、「大学は学生の皆様のために学修環境を作って支援する」という意思表示をしなければいけない。それを促進するために、教職の職務規範の整理、FD・SDの研修を徹底する、こういった体制が必要だ。

- ・ 学修支援について良い事例等があれば、メール上で共有することとなった。

4. 個々の授業課題を解決するための改善策を学生にフィードバックする際の留意点について

- ① 学生の思いを教員が受けとめて、授業で工夫できることや、授業を越えて大学全体で対応しなければいけないということも、フィードバックしなければいけない。ポートフォリオを学生に取り組ませる以上、コメントを返すというのは当たり前だということをまずは訴えたい。
- ② 授業アンケート等も、取ったはいいが、どう改善したかということを中心に公開しない、どう改善するつもりなのかということも公開しないことが大きな問題である。
- ③ 改善・工夫についてポートフォリオで、学生から意見を折り返し求めることにしておくことが肝要。
- ④ 財政、教育政策や、組織再編構築の観点から問題に発展する恐れがある意見についても、それはそれとして然るべき部署で対応することを明確にすべきだ。
- ⑤ フィードバックする仕組みの中で配慮する点として、学生や教員のコメントに不利益が生じないように、情報共有の範囲を検討しておく必要がある。
- ⑥ 学生も自分のコメントを担当者以外の先生に見られたくないなどの意見もある。学生と教員の信頼関係が重要だ。

5. 今後の進め方について

「学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法の留意点」と、「個々の授業課題を解決するための改善策を学生にフィードバックする際の留意点」については、委員の意見をもとに委員長を中心に纏めることとなった。また、授業の有効性を確認する方法について、ティーチングポートフォリオを作る必要性、授業評価、プログラム評価、カリキュラム評価に、どうポートフォリオを活かすかという観点で次回から議論することとなった。

## V. 今後の検討の進め方について

今回は、「シラバスを通じて学生に呼びかけるための工夫」についてのスクリプト資料の確認、科目毎に役割分担した「学士力の修得状況を自己点検できるようにするためのワークシート」の確認及び「学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法の留意点」、「個々の授業課題を解決するための改善策を学生にフィードバックする際の留意点」の纏め、「授業の有効性を確認する方法」についての議論を行うこととなった。

◇第4回：平成27年3月20日(金)14:00～予定

### 【参考】今後の検討事項と検討の進め方について

優先的に検討すべき事項を平成26年度のテーマとし、検討成果を発表する。その上で検討のテーマについて平成27年度に検討を行い、全体としての報告をとりまとめる。

#### 1. 優先的に検討すべき事項(平成26年度検討項目)

- (1) シラバスの中で学修ポートフォリオに取り組む必要性の説明イメージの例示
- (2) 学士力の修得状況を自己点検できるようにするワークシートの例示
- (3) 学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援の仕方についてのモデル
- (4) 個々の授業課題を解決するための改善策を学生にフィードバックする仕組みの例示
- (5) 授業の有効性を確認する方法のモデルの例示

#### 2. 次年度に検討すべき事項(平成27年度検討項目)

- (1) 教職員の意識変革を推進する仕組みの例示
- (2) 教育プログラムの効果を学部または学科単位で点検するための仕組みの例示
- (3) 学修ポートフォリオによる学生の負荷低減のための教学マネジメントの課題を提案
- (4) ガバナンスの理解を得るための方法の例示
- (5) eポートフォリオシステム構築に伴う留意点の整理
- (6) eポートフォリオシステムを運用管理する留意点の整理
- (7) eポートフォリオシステム導入事例の紹介と課題の紹介